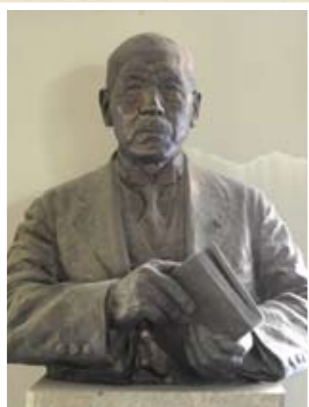


東大病院だより

HISTORY OF THE UNIVERSITY OF TOKYO HOSPITAL

世界最高水準の色覚異常検査表

1922年(大正11年)に眼科学教室の教授となった石原忍は、色覚異常の研究に力を注ぎました。教授就任前に陸軍軍医学校で教官をしていた石原は、1915年(大正4年)に陸軍省から徴兵検査で使用する色覚異常の検査表を作るよう命じられました。スチルリング氏の仮性同色表を参考にしながら研究を重ね、1916年(大正5年)に初版が出版されました。スチルリング氏の方法は、軽い色弱の人と健康な人を判然と区別するのが困難でしたが、石原の方法は色の配置や組み合わせを工夫したことにより、その点を改善しました。翌年には海外向けの検査表も完成。1918年(大正7年)には、片仮名、数字を用いた国内の学校用の検査表も作りました。その後、北欧諸国の鉄道員の検査に石原表が採用されたり、石原表と他の方法を比較研究した論文が発表されるようになりました。そして1933年(昭和8年)にマドリッドで開催された第14回国際眼科学会において「色神は数種の方法で検査し、且つ必ず二種の仮性同色表による検査を含むこと、出来ればスチルリング表及び石原表を用いること」とされ、世界各国の各種雑誌機関を通じて公表されたことから、石原表は次第に世界で知られるようになり、各国の眼科教科書にも掲載されるようになりました。



●石原忍名誉教授の像
1905年に東京帝国大学医科大学(現・東京大学医学部)を卒業後、陸軍の軍医となり、その後、陸軍軍医学校の教官を務めた。1922年に眼科学教室の主任教授に就任し、1937年からは医学部長も兼任。1940年に退官した。

出来事

10月～12月

10/27
木

ハロウィンパレード

お姫様、魔女、かぼちゃのジャック・オ・ランタンなどに仮装した子供たちが看護師や保育士らと共に“Trick or Treat!”と袋いっぱいのお菓子をもらいながら院内をパレードした。



(小児医療センター)

12/1
金
12/25
月

クリスマスイルミネーション

入院棟1Fグリーンテラスでクリスマスイルミネーションの点灯式が行われた。参加した子供たちにはクリスマスプレゼントが手渡され、イルミネーションをバックに記念撮影する姿もみられた。



(好仁会)

12/13
水

新入院棟記者発表

新しい「入院棟B」の完成について記者会見を開催。概要説明のほか小児医療センター、救命救急センター、高度心不全治療センターを中心に見学会も併せて行った。



(パブリック・リレーションセンター)

12/18
月

健康長寿に向けた“腰痛教室”開催

腰痛で悩んでいる方を対象に、個人の状況に合わせた運動指導を含め、セルフマネジメントの方法を伝える1回完結の腰痛教室を開催。講師は松平浩医師。※開催予定は東大病院ホームページのお知らせに随時掲載 (<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/>)。 (整形外科・脊椎外科)



12/20
水

cafe ゆりの樹 by ROYAL オープン

入院棟Bの1Fに軽食と飲物を提供する喫茶「cafe ゆりの樹 by ROYAL」がオープンした。営業時間は平日7:00～17:00。



(好仁会)

12/20
水

クリスマスコンサート

外来診療棟1Fでは今年も東京大学吹奏楽部によるクリスマスコンサートが開催された。定番のクリスマスソングから演歌まで多彩な演奏とダンスで患者さんや職員を盛り上げた。



(臨床倫理・サービス向上・接遇委員会)

石原忍名誉教授(眼科学教室)が色覚異常検査表を製作するにあたって自ら彩色描画した原図(東京大学医学図書館所蔵) ※裏表紙に関連記事

【特集】

新しい入院棟「入院棟B」が開院しました

東大病院から世界へ発信

ゲム医学による自己免疫疾患の統合的理解と臨床応用

医学歴史ミュージアムの紹介

ノーベル博物館

